

食料品値上げへ

来月以降 家計負担じわり増す

食料品の値上げが十二月から相次ぐ。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、中国や米国を中心に経済活動の再開が本格化する中、世界的な食料需要の高まりに加え、原油価格の高騰で原料費や物流費が上がっているためだ。冷凍食品やしょうゆなど身近な物も多く、家計負担がじわりと増す冬になりそうだ。

外食チェーンを展開するロイヤルホールディングスは十二月一日、インターネッ上で販売する冷凍食品を値上げする。冷食製造のマルハニチロも十一月二十九日、白身魚の揚げ物など九十九品を来年二月一日の納入分から値上げすると発表した。

12月以降に 相次ぐ主な食品の値上げ

企業名		値上げが始まる 出荷や納品の 時期
	ロイヤルホールディングス	カレーやドリア、ビーフシチューなど冷凍食品8品の販売価格を20～80円引き上げ
冷凍	味の素冷凍食品	ハンバーグなど冷凍食品18品の出荷価格を約4～13%引き上げ
	日本水産	家庭用冷凍食品63品を約4～13%、業務用179品を1～13%それぞれ引き上げ
小麦粉・パスタ・パン	ニッポン	家庭用の小麦粉など120品目の出荷価格を約1.5～9.5%引き上げ
		300グラム入りの「オーマイ スバゲッティ」の希望小売価格を275円から300円に
	山崎製パン	「超芳醇」など食パンや菓子パン247品の出荷価格を平均7.3%引き上げ
調味料	キッコーマン	しょうゆの希望小売価格を約4～10%引き上げ。「キッコーマンこいくちしょうゆ」(1リットル)は398円から420円に
菓子	湖池屋	「カラムーチョ」など菓子27品の出荷価格を約6～11%引き上げ
	カルビー	「ポテトチップスうすしお味」など菓子17品の出荷価格を約7～10%引き上げ